

【特集】 災害への備えを考える ～ライフラインが止まったら～

昨年は、大阪北部地震といった前例のない地震や、9月に日本を襲った台風21号といった大型台風が頻繁に発生するなど、想定を超える自然災害があいつぎました。これら災害時には停電やガス停止が生じるなど、ライフラインに影響を与え、日常生活に支障を来しました。今後さらなる大規模災害が発生した際、ライフラインの停止が長期化することも予想されます。今回は災害時にライフラインが停止した場合など、家庭でできる災害対応、防災対策をご紹介します。



水道が使えない

水道

ガス

電気

ライフライン 停止に備える

●備えておくもの

【飲み水対策】

▽3日分の飲料水(1人1日3ℓ)

【お風呂・手洗い対策】

▽浴槽に水を多めに溜める

▽ウェットティッシュ

▽マウスウォッシュ

【トイレ対策】

▽簡易トイレ▽新聞紙▽ゴミ袋▽凝固剤



●自宅の状態を確認しましょう

市ホームページや市上下水道部に断水状況を確認

※大規模な断水が発生している場合、市への問い合わせがつながりにくい場合があります。

断水している

市ホームページなどで最寄りの給水拠点を確認してください。

断水していないが水が出ない

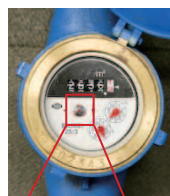
【戸建住宅の場合】



宅内の漏水を確認し、メーターのパイロット（銀と赤の丸いもの）が回転しているか確認してください。

激しく回転している場合は災害により敷地内の水道管が破損し漏水している可能性が高いです。すぐに止水栓を右に回して水を止め、指定工事店に修繕の依頼をしてください。

※日頃からメーターと止水栓の位置を確認しておきましょう。



◀パイロット

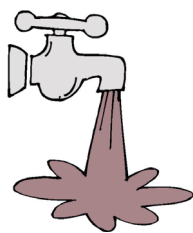
【マンションの場合】



停電によるポンプ停止の原因が考えられます。管理会社に復旧依頼の連絡をしてください。マンションなどの建物は高い場所まで水を送るため、電動ポンプで水を送っていることが多いです。そのため、停電で電動ポンプが一時的に停止すると、管理会社が復旧作業をするまでポンプが動かず水が止まります。

台風や地震などの災害時には、水道・ガス・電気などのライフラインが使用できなくなる場合があります。6月に発生した大阪北部地震の際にも、市内の一部地域やマンションで、ガスの停止や断水などが発生し、市民生活に大きな影響が出ました。日頃から食料などを備蓄しておくことに加え、ライフラインが停止となった時の対応も、あらかじめ確認しておくことが重要です。

● 水は出るが、濁っている時



災害が発生すると、水道管内の水の流れが変わり、水道管内面に付着した鉄分など水の成分が剥がれ、水道水が濁る場合があります。

その場合は上下水道部に、水が濁っている事を連絡し、水が透明になるまで水を出し続けてください。20～30分出しても濁り水が解消しない時は、水を止め、上下水道部による送配水管の洗浄作業を待ってください。順次、行っていきます。

● トイレが流せない時



備えていた水で流す

【注意】破損している場合は水漏れするので流さないでください。

- ①フタと便座を全て開ける
- ②バケツ1杯分の水(6～8ℓ)を、便器に一気に流し込む
※排水管の途中に排泄物が停滞する事を防ぐため、2～3回に一度は、多めの水(10～12ℓ)を流す
- ③更に静かに3～4ℓの水を流す

簡易トイレを作る

必要な物 45ℓ(65cm×80cm)のゴミ袋2枚、新聞紙など水分を吸収する紙類または凝固剤
※凝固剤は水分を固める粉で、ホームセンターなどで購入できます。

【準備】

①フタと便座を上げ、45ℓのゴミ袋を便器にかぶせ、②便座にもかぶせませます③便座を下ろし、両方にゴミ袋をかぶせた状態にします



【使用時】

★新聞紙を使う場合

便座側の袋に新聞紙2枚程をちぎって入れ、排泄後更に新聞紙を入れ、水分を吸い取る

★凝固剤を使う場合

排泄後に、便座側の袋に凝固剤を入れ、排泄物を固める



◀新聞紙を使う



◀凝固剤を使う

便座側の袋だけを取り出し、袋の口をしっかり縛り「もやせるゴミ」で排出する



ガスが使えない

● 備えておくもの

【食事対策】

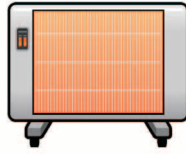
▽カセットコンロやガスボンベ

【お風呂対策】

▽ボディスシート

【寒さ対策】

▽カイロ▽毛布▽ガスボンベで使える暖房器具



● 自宅の状態を確認しましょう

全てのガス機器を止めて、ガス臭くないか確認

ガス臭かったら

元栓を締め、窓や戸を開けガス会社に連絡。
火や電気は絶対に使用しない。



ガス臭くなかったら

都市ガスの場合は復帰手順を試してみましょう。

復帰手順（都市ガス）

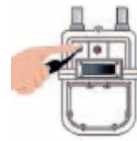
① メーターの赤いランプの点滅と全てのガス機器の栓が閉まっている事を確認

※メーターガス栓は閉めない

② 復帰ボタンのキャップを左に回して外す



③ 復帰ボタンを奥までしっかり押し、ランプの点灯を確認後手をはなす。※点灯後、再度ランプの点滅が始まる



④ ガスを使わず3分間待つ。ランプの点滅が消えるとガスが使えます。

⑤ 復旧しない場合はガス会社に連絡してください。

● 備えておくもの

【生活対策】

▽懐中電灯

▽予備の乾電池

▽発電機

【情報収集対策】

▽ラジオ

▽携帯充電器



● ペットボトルを使ったランタン

水を入れたペットボトルを懐中電灯の上に立てるとランタンが作れます

※懐中電灯が小さい場合は、コップに懐中電灯を立てて入れ、その上にペットボトルを立てます。



電気が使えない



もしも今、災害が発生したら・・・
自分や家族はどのように行動しますか？

家族で防災会議を

■想定される状況を確認

さまざまな被災状況を想定しましょう。被災する時間や場所、季節など、状況によって備蓄品や被災時の行動が異なってきます。



例えば・・・

▽子どもが学校や遊んでいる先で災害に遭う
▽大人が職場で災害に遭う
▽通勤・通学中に災害に遭う など

■どのような行動をとるか確認

被災した状況によって、行動が異なってきます。被災した場合、どのようにして安全を確保するか確認しておきましょう。

例えば・・・

▽どこに避難するのか▽避難経路はどうするか▽誰が何を持って避難するのか▽家族が離ればなれの時に災害に遭ったら、どのように連絡をとるのか など

備蓄品の一例

常にリュックに準備するもの

- 飲料水 (500ml家族各人1本以上)
- 非常食 (家族各人3日分)
- タオル・下着・靴下・スリッパ
- 衛生用品・生理用品
- 雨具
- 防寒シート
- 嗜好品
- 懐中電灯
- 現金
- 携帯ラジオ
- ビニール袋



自宅に準備するもの

- 飲み物 (1人1日3ℓ×7日分×家族数)
- 食料 (7日分程度)
- 使い捨てカイロ
- 携帯用トイレ・ポリ袋
- カセットコンロ
- ブルーシート
- ウォータータンク
- スリッパ



あったら便利なもの

- ティッシュ・トイレットペーパー
食器や手を拭く時に使います。
- ラップ・アルミホイル
皿に食料を入れるとき、ラップを敷くと、皿を洗う必要がなくなるため。
- 大きなゴミ袋
ゴミ入れとしてだけでなく、降雨時のカップや洋式トイレに敷いて簡易トイレにするなど、さまざまな用途に使えるため。
- 運搬用のカート
給水車で水を貰った時、重くて運びにくいいため。

～その他～

- 簡易食器 (紙皿・紙コップ)
- スプーン・箸
- 缶切り・栓抜き・ナイフ
- 筆記用具・メモ帳
- アイマスク・耳栓
- ガムテープ
- 洗面用品
- ライター類
- 軍手
など

備蓄品は人それぞれ

ライフラインが復旧するまで、普段と違う生活を送らなければなりません。世帯の状況によって、必要なものは異なってきます。日頃から家族会議などを行い、災害時のさまざまな状況を想定した準備を行きましょう。